

佐世保市子ども・子育て支援事業計画策定に関する子育てサークル・グループインタビュー

日時：平成26年6月6日（金）午前10時～正午

場所：佐世保市役所（中央保健福祉センター 6階研修室2）

参加者：子育てサークル関係者（7名）

インタビュー：公益財団法人ながさき地域政策研究所

■スタッフの数

大きな問題はないが、スタッフの輪がもっと広がると良い。

- ・ 仲間がもっと増えるといい。スタッフがもう少し増えればよい。
- ・ 活動にあたってあまり困っていることはない。孫と同じようなイメージで活動している。

■ノウハウ・情報継承

スタッフ内でのノウハウや情報の継承や世代交代が課題に。

ノウハウの習得も大切だが、サークルならではの活動を行いたい。

- ・ 子どもが成長するにつれてサークルスタッフ内で情報やノウハウの継承が難しい。
- ・ サークルの引継ぎ・継承、世代交代が課題。
- ・ 支援センターと連携しながら活動を行っている。
- ・ 手遊びなど技術の習得が課題。
- ・ ノウハウも重要だが、保育士（プロ）になる必要はない。サークルならではの活動を行うことが重要ではないか。

■サークル活動内容

参加者の年代でニーズも異なることを意識する必要がある。

- ・ 同じサークル内でも乳幼児の保護者と小学生の保護者では悩み事も違う。世代にあった対応が課題。
- ・ 悩み事を聞いてあげて、共感するだけでも非常に安心してもらうこともある。仲間と出会う共感する場であることが大切では。
- ・ その地域の活性化を促すような活動をしてほしい。
- ・ 乳幼児期の保護者にももう少し参加してほしい。

■ 情報発信

子育て支援センターや行政、民間事業者等と上手く連携を取った情報発信が効果的。

S N S などの情報発信も大切。

- ・ チラシを作っているがそれだけでは情報発信が十分ではない。詳細版など一歩詳しい情報も発信する媒体が必要。
- ・ 手作りチラシを作って地域の全世帯に回覧で回しているが特段の問題はない。他地域は口コミ中心。
- ・ 子育て支援センターと連携した情報発信を行うと効果的。連携が取れていると動きやすい。
- ・ ふれあいセンターにポスター、地域のスーパーにもチラシを置いてもらっている。月別の年間スケジュールを作成している。
- ・ 最近はフェイスブックを活用している。
- ・ 図書館、市のイベント時にも発信してもらっている。
- ・ 年 3 回ほど親子広場で楽しい雰囲気の中で情報発信している。連携した情報発信が効果的である。
- ・ 市のホームページにも活動をアップしてもらとうとありがたい。
- ・ 転入者が多いので、手続きの際に情報発信する工夫も必要。
- ・ フェイスブックやホームページを上手に利用していくことが重要。
- ・ 町内会に入っていない人もいる。そういう人たちにどうやって情報を届けるか。広報誌も大切だが、S N S など情報発信を多様化することが必要。
- ・ マタニティ時期に情報発信を行うことが大切。

■ 活動場所について

常時安定的に利用できるような場所がほしい。施設は子どもの年代や活動内容にあわせた柔軟な活用が出来るとありがたい。新しい施設はフレキシブルな施設ありがたい。

- ・ 時間の制限や食事の制約などは、活動面からみると使いづらい点もある。
- ・ 机や椅子などが標準的だと思うが、子育てサークルからみると、必ずしも使い勝手が良いとは限らない。ゴロリと寝転がることが出来るような空間も必要。
- ・ 活動の都度、場所を探している状況。出来れば中心部で常時利用できる場所を確保してほしい気持ちはある。
- ・ 三ヶ町の公民館は駐車場がなく利用しにくい人もいる。
- ・ 地区公民館、民生員さんとのコラボレーションができるとありがたい。
- ・ 野外で遊べる場所があると良いが、駐車場や相乗りするような場所が少なく苦慮している。
- ・ 施設の予約が 1 週間前など制約があり、急な予定変更などに対応できない。
- ・ 年代や活動により施設の使い方が違うので、柔軟な活動を支援する施設が必要。
- ・ あまりカチツとした建物よりもフレキシブルに使えるような施設・空間が良いかと思う。こういう声を担当セクションに伝えることが必要。

■活動資金について

利用者の減少が負担増加に直結するケースもあり。

行政や自治会などの連携やサークル間でのネットワークが重要。

- ・ 活動資金として大人 1 回 1 0 0 円を頂いている。施設利用料金がかからないので、チラシ代など最低限の活動費で頂いている。イベントなどの費用は実費で何とか活動している。
- ・ 1 家族 5 0 0 円を頂いて材料代などを捻出してきた。公民館の電気代などが必要。参加者が少なく今年から 1 0 0 0 円を頂いている。場所が代わり広くなったので暖房代などが高くなったが切実な問題である。
- ・ 町内の連合会などから助成金も頂いており特段困っていることはない。
- ・ 委託事業で行っているので特段困っていることはない。
- ・ 広報での情報発信など行政と連携できると非常に助かる。
- ・ サークル間のネットワークも大切。

■父親の参加

父親の参加をもっと盛り上げたい。企業にどうやって理解を促すかがポイント。

- ・ 子育てに父親や企業に参加してほしい。企業などに情報発信を強化してほしい。少しでも理解してもらいたい。
- ・ 若いパパたちに出来るだけ子育てに参加してもらいたい。
- ・ 親父しか出来ないイベントなどもあればよい。
- ・ 子育てはまずは家族の理解が重要。身内から理解を得ることが大切。身近なところからのネットワークが必要。
- ・ 父親の参加を促進するには、活動の内容や父親の役割がはっきりしていた方が参加しやすいのでは。
- ・ 若い父親は比較的理解があるが、子育てを終えた男性（経営者など）の意識を変えることが必要だと思う。その部分を行政がサポートできれば良いと思う。

■その他

行政などの定期的な意見交換の場が必要。

- ・ 教育委員会や行政などと定期的な情報交換を行う機会があると助かる。
- ・ こうしたグループインタビューの場があると非常に良い。
- ・ 幼児教育センターとの連携も必要。

佐世保市子ども・子育て支援事業計画策定に関する障がい児の保護者グループインタビュー

日時： 平成26年6月11日（水）午前10時～正午

場所： 佐世保市子ども発達センター（佐世保市花園町 101-1 ふれあいセンター内）

参加者： 心身に障がいを抱える子どもの保護者（8名）

インタビュー： 公益財団法人ながさき地域政策研究所

■住宅について

安心して暮らせる住まいの確保が難しい状況。賃貸における支援などを検討してほしい

- ・ 支援学校へ通学しやすい立地であるとか、気兼ねなく入居できる住居環境といったことを考えているとなかなか住まいが見つからない。
- ・ 障がい児を抱える同じ境遇の世帯が共に支えあって生活していけるような、例えば空き部屋の多い団地などに一緒に入居できるシステムがないかと普段から思っている。
- ・ 市営住宅における生活音などの苦情等について、市に仲介役になってほしい。また、防音対策などの手立てをとってほしい。

■まちづくりについて

駐車場利用など一般の皆さんの一層の理解が必要

- ・ 障がい者専用の駐車スペースが一般車両の駐車により使えない場合がある。一般の方の理解度がもっと向上したらと思う。
- ・ 障がい者専用トイレやスロープなどが実際には使いづらいことがある。（障がい者目線で作られていない。）

■学校について

就学後のサポートをお願いしたい。子ども担当課や教育委員会など連携強化も必要

- ・ 就学後においても、普段のコミュニケーションなど集団で学べる場所がほしい。
- ・ 特別支援学校か一般の学校で支援教室に通わせるかの選択がむずかしい。一般学校にも障がい児の専門知識を持った先生を配置してほしい。
- ・ 子ども担当部局や教育委員会といった関係部局の横の連携をもっとしてほしい。

■発達センターについて

スタッフ不足が課題。就学後のサポート体制も必要

- ・ スタッフが少ない。人的にもスケジュール的にももっと拡充してほしい。
- ・ 継続して通わせたいと思っても、センターの判断でとめられてしまうことがある。小学校就学後でも継続して通える場所やサポート体制が必要。

■病院について

リハビリの受け入れ先などが不足。病院間の連携などが必要

- ・ 小児リハビリの受け入れ先がなかなか見つからない。発達センター若しくは病院側から情報発信をしてほしい。

■情報発信について

親同士の情報発信の場がほしい。ネット上だけでなく人の繋がりが必要。

- ・ 専門病院のことや各種支援制度、損害（傷害）保険のことなど知らない情報があるため親どうしの情報交換の場がほしい。
- ・ 男親は女性の親の輪に入りづらい。男親どうしの集いの場があっていいのではないか。
- ・ 「障がい」と言っても知的や身体など千差万別。それぞれに悩みや困っていることは違うため、それに対して様々な情報が得られるようになったらと思う。単にインターネット上の情報だけではなく、人的なつながりの中で得られるような人の輪が広がればと思う。
- ・ 障がいに特化したグループや親の会の情報について、佐世保市が取りまとめて情報発信をしてほしい。

■イベントについて

子どものやる気や元気が出来るようなイベントの企画が大切。お金をかけなくてもやれることはたくさんある

- ・ 佐賀では6月の始めに「佐賀セラミックロード車いすマラソン大会」が行われた。昨年度からの成長の跡がはっきりみえて嬉しかった。佐世保市でもこのようなイベントを開催してもらえないか。子どもが楽しんで参加できる場を作してほしい。
- ・ 費用をかけなくてもボール投げでも何でも良いと思う。本人の達成感が大切。

■保育所について

保育所の入所条件を考慮してもらいたい

- ・ 親が就労していることが保育所への入所条件となっているが、介護や障がい児の養育中などといった場合に兄弟児を保育所に預けることができればと思う。親が疲弊して倒れてしまっているといけない。